

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 天王寺区
学校名 天王寺小学校
学校長名 藤原 和彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・天王寺小学校では、第6学年 66名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和7年度は、国語科は正答率69%で全国平均より2.2ポイント、大阪市平均より4ポイント上回った。算数科は、正答率61%で全国平均を3ポイント、大阪市平均を3ポイント上回った。理科は、正答率57%で全国平均を0.1ポイント下回り、大阪市平均を2ポイント上回った。学習指導要領の領域別にみると、国語科では思考力・判断力・表現力の領域、算数科では図形を除く全領域、理科では「エネルギー」「生命」を柱とする領域で全国平均・大阪市平均を上回っていた。また、平均無解答率をみると、国語科と算数科で全国平均・大阪市平均を下回っており、本校児童が課題をしっかり考え解答を出していこうとする粘り強い態度で臨んだ結果高い正答率を出すことができたと考える。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

全体の平均正答率は、全国平均・大阪市平均を上回っている。領域別に見ると「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均・大阪市平均を上回っており、特に「話すこと・聞くこと」の領域では大きく上回った。言語活動を大切にした学習の取り組みやICTを活用した効果的な学習などの成果が表れていると考える。

[算数]

全体の平均正答率、図形以外の領域の平均正答率とともに、全国平均・大阪市平均を上回った。特に、「変化と関係」の領域においては、大きく上回った。個に応じた指導の充実やICTを活用した効果的な学習などによって基礎・基本の一層の定着や知識・技能の向上などにつながったと思われる。

[理科]

全体の平均正答率は全国平均・大阪市平均を同等であった。「エネルギー」「生命」を柱とする領域については全国平均・大阪市平均を上回った一方で、「粒子」「地球」を柱とする領域では下回った。ICTを活用した効果的な学習などによって知識や技能の向上につながった反面、実験などの具体的な作業がしにくい領域では基礎・基本の定着に課題が残ったと考える。

質問調査より

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」との問い合わせに対する肯定的回答が全国平均・大阪市平均より高いことから、相手を思いやり、行動を起こしたいという道徳心が育まれておらず、それらが本校の異学年交流など活かされ、豊かな学校生活に繋がっていると考える。また、その影響は「友達関係に満足していますか」という問い合わせに対する肯定的回答の高さにも現れている。また、「分からぬことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」との問い合わせに対する肯定的回答が高いことから問題解決的な学習を進めたことにより、思考力・判断力が高められたことにつながったと考える。

今後の取組(アクションプラン)

これまでの学校の取り組みの成果が結果として出ていると考える。今後も継続して指導にあたりたい。「主体的・対話的な学び」の充実に向けて、ICT機器をより効果的に活用した学び方の工夫や教材・教具の開発などを進めていきたい。児童の正答率の分布をみると、国語科・算数科ともに全国や大阪市などの結果に比べて平均を上回っているが、高得点層への分布がさらに多くなるよう、専科学習の充実やICT機器の活用などによる個に応じた指導をいっそう進めていき、更なる成長を促していくたいと考える。理科においてもICT機器の活用や体験的な活動を交えることで、基礎・基本の知識獲得を目指していきたい。

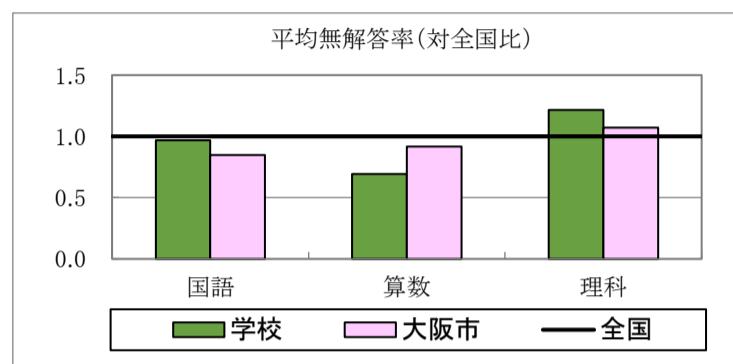
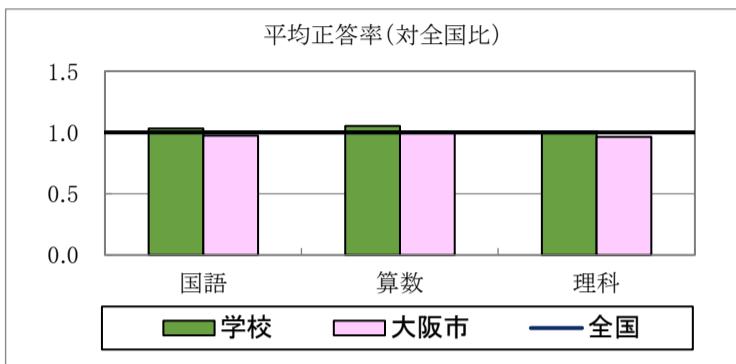
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	69	61	57
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	3.2	2.5	3.4
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



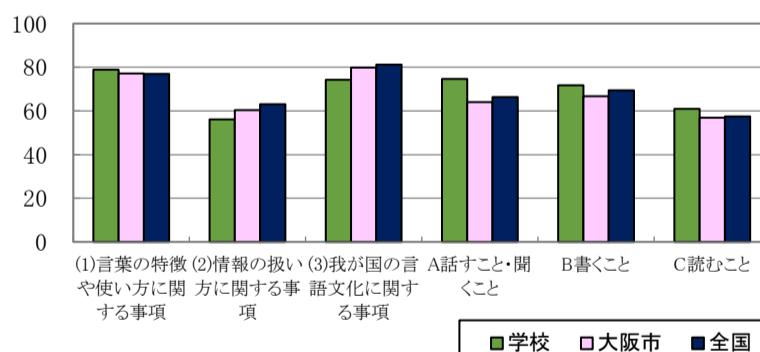
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	78.8	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	56.1	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	74.2	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	74.7	64.0	66.3
B 書くこと	3	71.7	66.7	69.5
C 読むこと	4	61.0	56.9	57.5

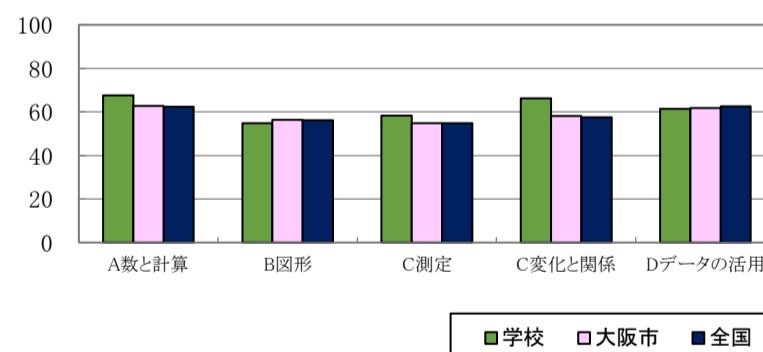
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	67.6	62.7	62.3
B 図形	4	54.9	56.4	56.2
C 測定	2	58.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	66.2	58.2	57.5
D データの活用	5	61.5	61.9	62.6

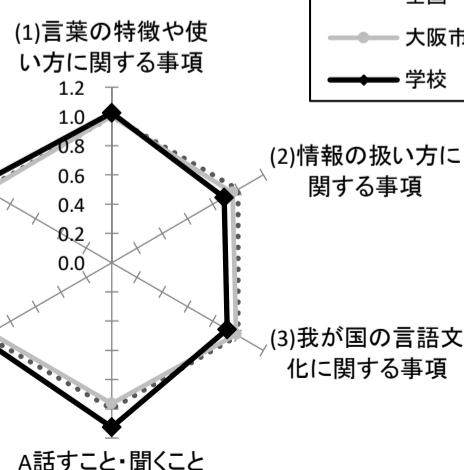
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



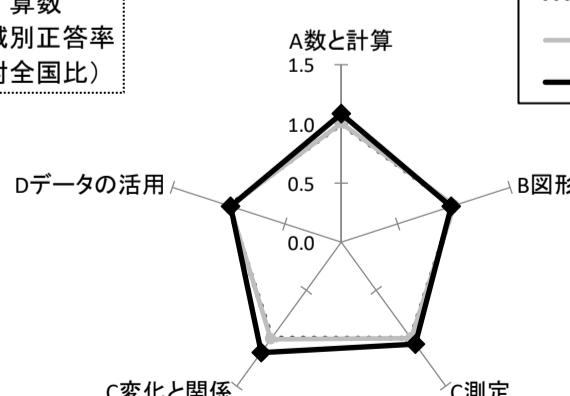
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

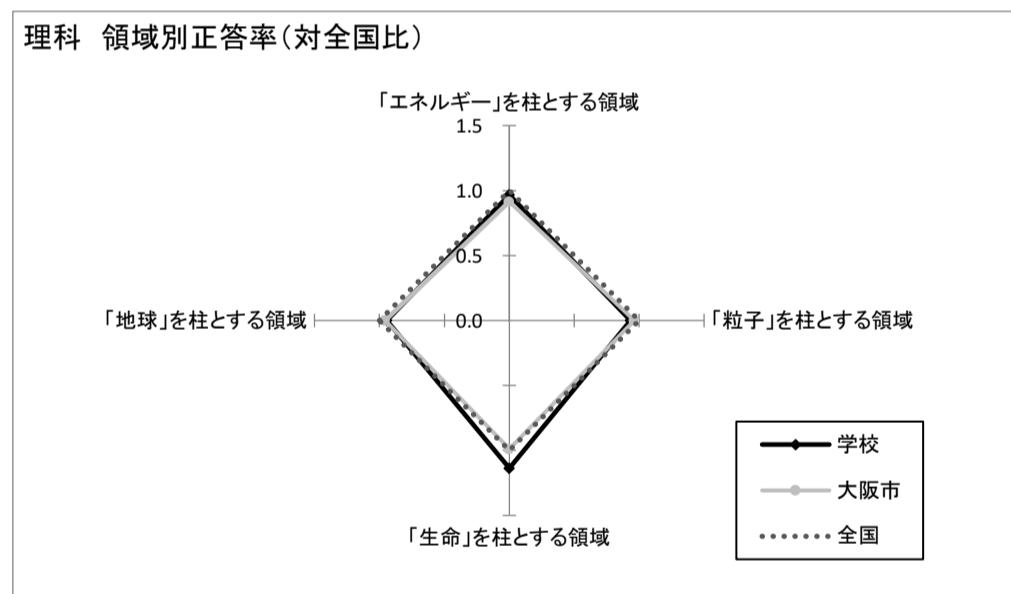
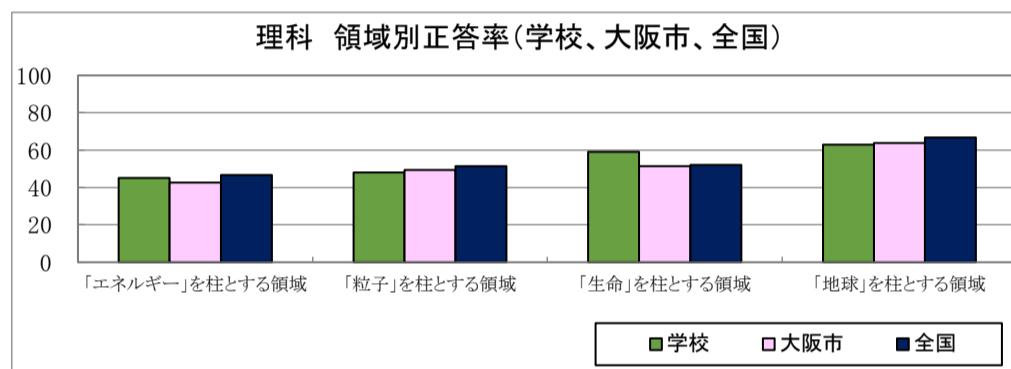


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	45.1	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	48.0	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	59.1	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	62.9	63.8	66.7



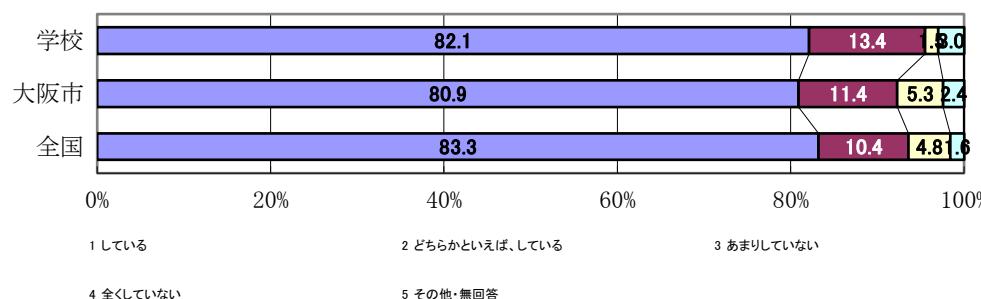
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

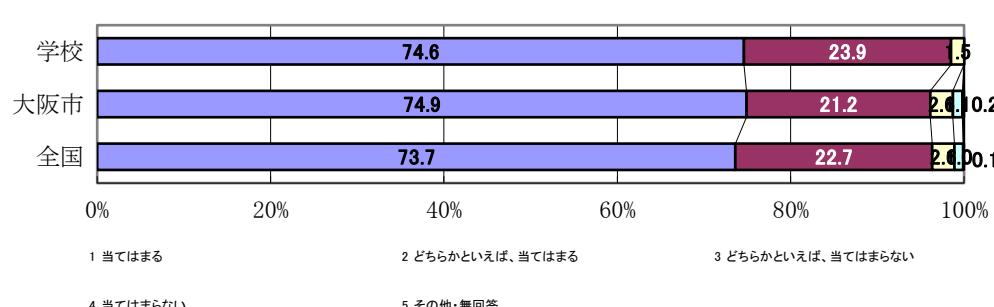
1

朝食を毎日食べていますか



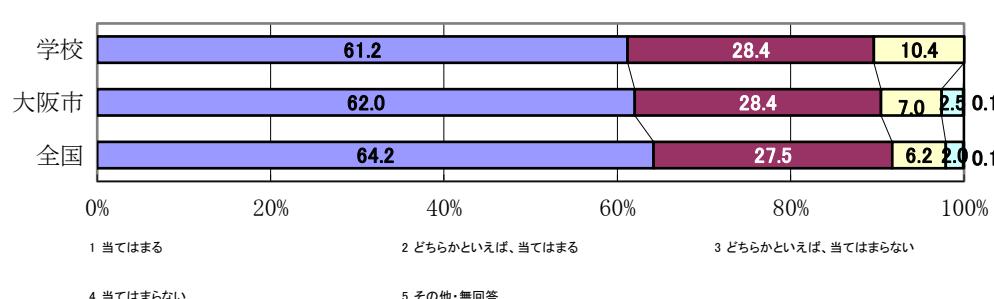
11

人の役に立つ人間になりたい
と思いますか



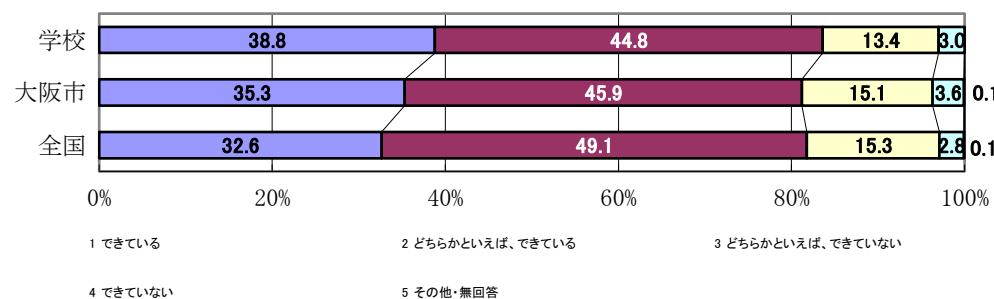
14

友達関係に満足していますか



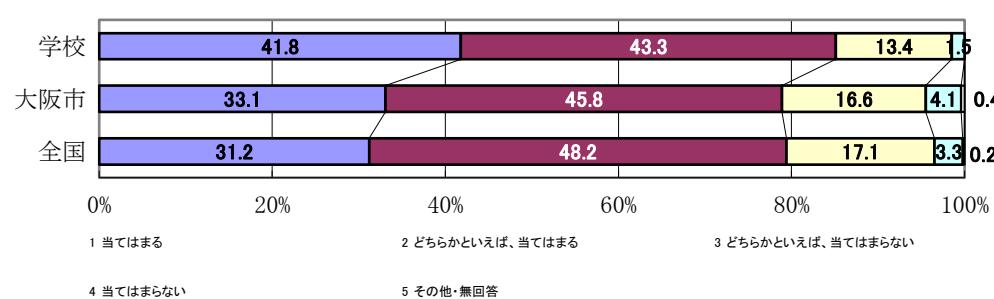
16

分からぬことやくわしく知りた
いことがあったときに、自分で
学び方を考え、工夫することは
できていますか



36

学習した内容について、分
かった点や、よく分からなかっ
た点を見直し、次の学習につ
なげることができますか



学校質問より

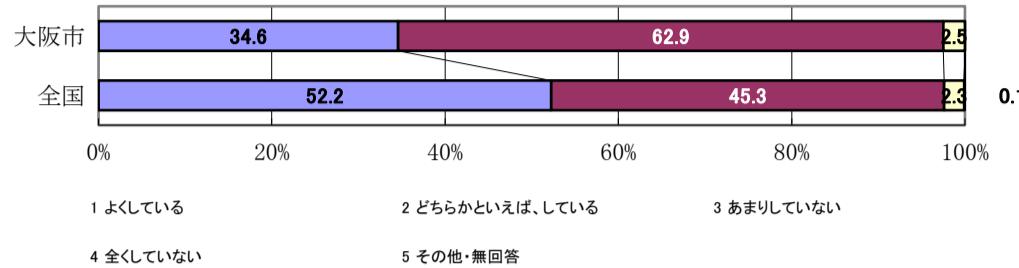
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

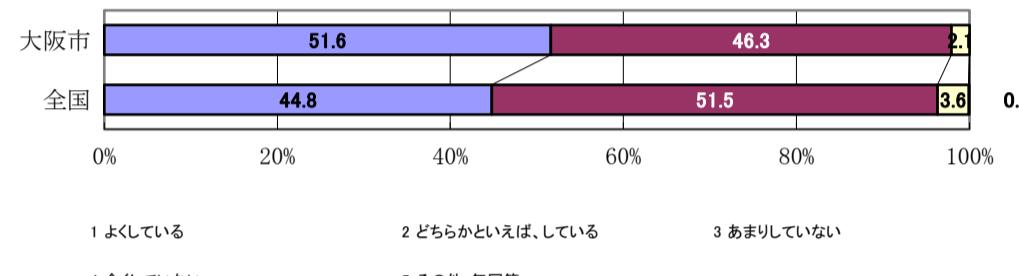
学校 「よくしている」を選択



17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

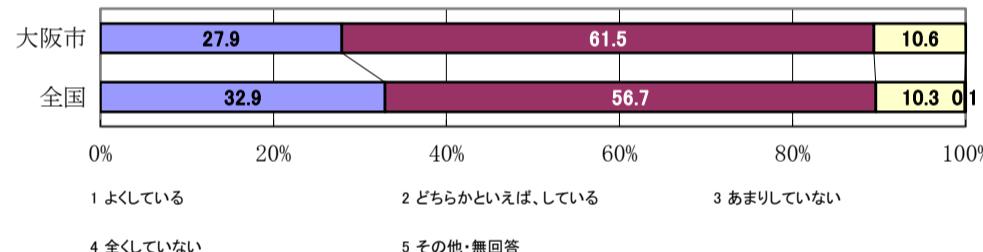
学校 「よくしている」を選択



19

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

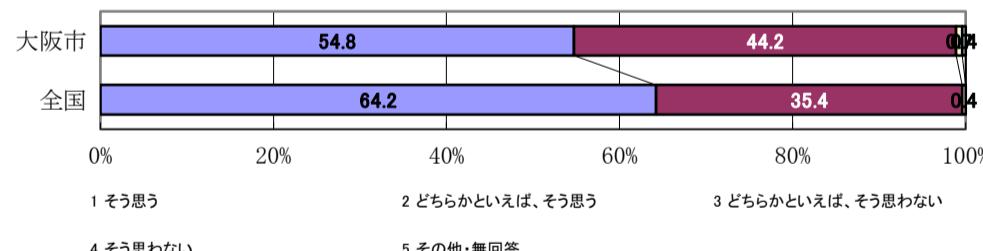
学校 「よくしている」を選択



21

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員(支援スタッフを含む)の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか

学校 「そう思う」を選択



24

ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されていると思いますか

学校 「そう思う」を選択

